やちょうの会・山口支部報告（第７８の山登頂記）　　2011.7.11 受

　秋吉台地方に伝わる伝説によると、秋吉台の最高峰に「芝尾」「鳴滝」など５人の神と、神に仕える龍がおり、神々は時折、その龍にまたがり村を巡り、人々に豊作や安産などを授け、また降りかかる災悪を取り除くなど人々を篤く守ってくれたと言われています。このようなことより、この秋吉台の最高峰は、「龍が護っている峰」として地名に残ったということです。

　少し前置きが長くなりましたが、当日（７月１０日）、メンバー８人（男女各４人）が、朝９時に公民館に集合。リーダーの車で約１時間、登山口のある秋吉台家族村駐車場に到着。この家族村には、キャンプ場、テニス場などがあります。

　それぞれの準備が終わりかかった頃、ゆで卵の差入れ配布あり（いつものバナナ配布のメンバーは本日お休み）。これも製造元の奥さん持参のふり塩も。特に、すこーし柔らかさを残した黄味が美味しかった。
「午前中曇り、午後晴れ、最高温度３１℃」の天気予報だったので、絶対大汗を掻くと言う予想のもと、今回はペットボトル入りの「だし醤油水」を持参。手軽で、塩分入り、更にダシの旨みもあり、今回の様な時に最高と思うけれども、紹介しても、誰も首を縦に振らない。

　そんななか、空は、曇りを超え、雲の浮かぶ晴れに。雲は、筆でまだらに白く掃いたような雲です（※）。１０時２０分ごろ登山口で「使用前の写真撮影」のあと登山開始。この地らしくさすがに、道脇にいきなり大きい石灰岩、道にもその石ころがごろごろ。道幅２～３Ｍの、傾斜も緩やかな道でした。両脇に杉などの植林のある木陰を進みました。

　３０分程進むと林も無くなり、もろに太陽を浴びて進むことになります。日傘を取りだした人もいました。まだまだ続く広い道です。空は素敵な雲を浮かべ、初夏の兆しです。暑いけど爽やかな風が救いです（※）。右手にはぽっかりとへこんだくぼ地、いわゆるドリーネがあります。穴が地下まで落ち込んでいるところがあるのかもしれません。柵がありました。笹などの一面緑の草原のなかに、ところどころに灰色の石灰岩が頭を出してアクセントになっています。樹木は数えるほどしかありませんが、その中に大台ケ原で見たような枯れた木がポツンと立っていたりしていました。今回登山の最大傾斜の急登を登り、登山開始より１時間少しで、途中のお鉢山の頂上に到着。ここは標高４０６Ｍですから、目的地までその標高差は僅かです。一旦下って最後の坂を登りますが、ここから目的地の頂上も見えました。この辺に来ると、道脇は両側の笹が道を蔽い、足でそれを払うごとく登ってゆきます。用心しないと、道に突き出た石灰岩に引っかかってしまいます。別ルートの下り道との分岐点を過ぎ、最後の登り（※）を凌いで、１２時ちょっと前に、龍護峰頂上到着。登頂記念撮影（※）。

頂上はちょっとした広場になっており、３６０度展望ＯＫです。ビールに間に合わせるべく、急いで今回持参のするめを焼きました。焼きするめは久しぶりです。皆さん、焼いた香りに歓声しきり。今日は、日曜日なのに貸切です。誰もいないので中央付近にひろびろとシートや新聞を敷いてにわかランチ会場を作り、そこに上がり込んでのお昼でした。袖をまくり、ズボンの裾もあげてお昼を過ごしましたが、夕方見たら腕も脚も陽焼けばっちりでした。日陰がないのでタオルを広く頭に掛けたりしてお昼を食べている人もいました。

１３時頃下山開始。段々雲の少なくなった青い空、緑いっぱいの平原、時折見える石灰岩、それらを眼で楽しみながら下りて行きました。こちらのルートは駐車場まで近いせいか登りよりやや急こう配で、随所に土止めをしてありました。登りと同様、麓近くは林になり、木陰歩行です。遂に、道脇に家族村の緑色の常設テントや炊事場がありキャンプ場です。駐車場到着は丁度１４時でした。麓には時期の遅いアジサイも鮮やかに（※）。今回の歩行数は８８４２歩と軽め。

帰り道では、大阪３人娘さん達と行った展望台に立ち寄る。横の売店で皆でソフトクリームを食べる。「なし味」もあったけど「蜜柑味」が人気。その後、昔、長者が住んでいた屋敷跡に、後の時代その子孫が植樹をして森になったという「長者が森」も散策。公民館には１６時半ごろ到着。

筆で掃いたような白い雲の浮かぶ空と時折石灰岩の灰色のアクセントのある緑の草原を歩く。涼やかな風のもとの散策、爽快でした。

山口／古賀